

レタスの栽培法

2011/10/14

タネまき

春は2～4月、秋まきでは8/中～10月が適期である。夏場は25℃以上でトウが立ちやすいので温度管理に注意しなければならない。特に、最近の夏は暑く残暑も厳しいので十分涼しくなってから播種したほうがよい。家庭菜園では9月になってからの種まきが賢明である。生種子であれば8～9月上旬の高温時は催芽処理(※1)したほうが、発芽揃いは良い。しかし、最近ではコート種子が用いられることが多く水につけることができない。また、気温が下がってくると催芽処理は必要ないであろう。(※1)催芽処理:タネを布袋などに入れ一昼夜水につけて、水を切り、適湿を与えて冷蔵庫に3～4日入れておくと白い根が出てくるので、それを蒔く。

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店
※一部又は全部の引用を禁止いたします

《セル育苗》

～一般にプロ向き

128穴のセルトレーに市販の種まき専用土を入れ、コート種子を1～2粒ていねいに播種する。覆土はしない。十分鎮圧し、不織布などをかけ乾燥を防止するとともに、その上から灌水すると種子に柔らかい水分が供給でき、発芽が良くなる。播種後3～4週間、本葉3～4枚で若苗を定植する。仮植はしないので夕方の灌水をさけ、水分過剰に注意し、徒長しないようにすることがポイントである。

《仮植する育苗》

～家庭菜園向き

プランターや市販の育苗箱などに、清潔な用土(高温期の育苗は立枯れが多発するので、市販の種まき専用土を強く勧める)を入れ予め灌水しておく。コートもしくは生種子を5～10mm間隔で丁寧に筋蒔きし、土はかぶせず、かまぼこ板なので十分押さえる。適温で約4

日で発芽するので、不織布などをかぶせておく。約1週間～10日、本葉1.5枚位で7.5～9cmポットに鉢上げする。(鉢上げまでは必要があれば不織布の上から灌水する。)その後約3週間し、本葉4～5枚となってから定植する。

定植

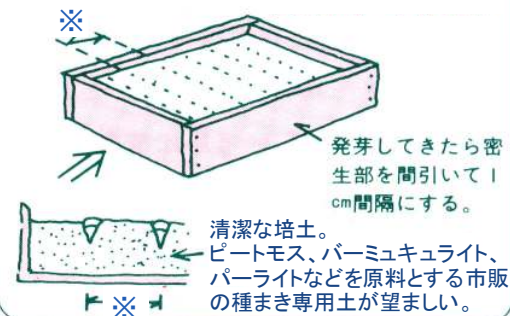
畦は60～70cmで2条植え、株間は30cm。植えつけ前に十分灌水し根鉢を崩さぬようまた、深植えにならぬように注意しながら定植する。穴あきマルチなどを使うと除草の必要が無く、雨水のはね上げによる病気の発生が少なくなる。

施肥

レタスは酸性を嫌うので1㎡あたり石灰を100～200gを施しよく混ぜる。元肥は堆肥2kg、8:8:8の配合肥料で120g程度を全面に施しておく。マルチ栽培の場合は追肥はほとんど必要なし。そうでない場合は定植後1ヶ月以上たったら60g/㎡程度を追肥する。

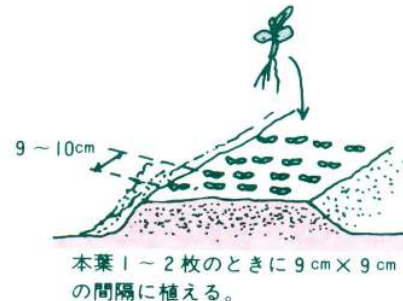
1 タネまき

※3.5～5cm



2

※下図は以前行われていた移植床を用いた仮植法です。現在は7～9cmポットを用いて本葉1.5枚位のととき、鉢上げを行います。



3 植えつけ

